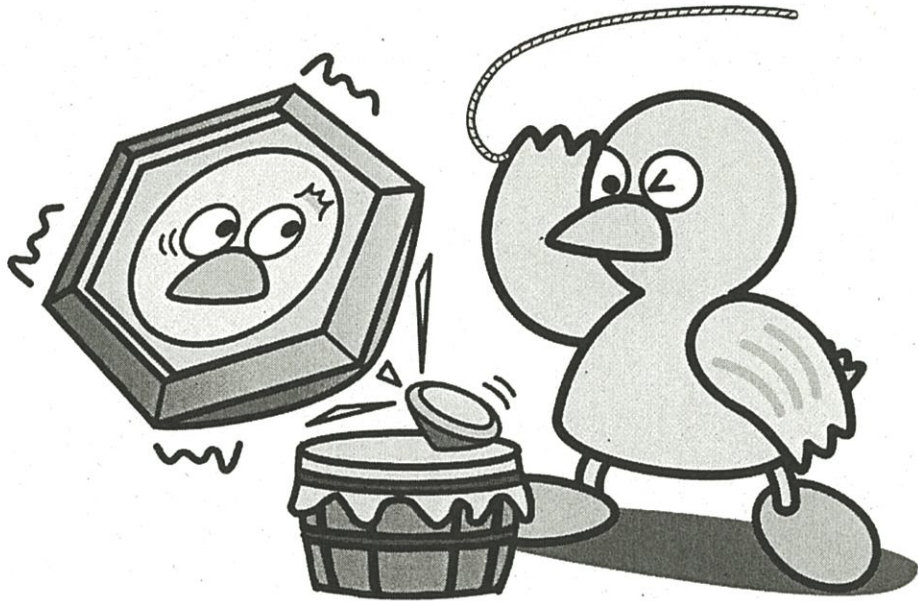


令和元年度

第2回東部地区

学校・家庭・地域連携担当者会議

取組事例集



令和2年1月30日(木)

春日部地方庁舎 大会議室

# 令和元年度第2回学校・家庭・地域連携担当者会議資料

【 行田市教育委員会 】

## 1 学校応援団

### ①実施状況

本市の学校応援団は、「学習活動への支援」「安心・安全の支援」「学校環境整備の支援」の3つを中心として、年間指導計画に基づいて組織的に活動している。また、本市では県の学校応援団推進事業費補助金を活用して市内全小・中学校24校に予算措置をしており、各学校において特色ある活動を展開している。

### ②成果と課題及び来年度の目標

各学校において、定期的に学校応援コーディネーターを中心とした学校応援団会議を設定し、連絡調整を十分に図りながら活動の計画立案・実施をしている。この取組をとおして、子供たちと地域の方とのふれあいが深まり、豊かな心の育成につながっている。また、応援団の方も喜んで参加し、学校が地域の活性化に役立っていると考ええる。

課題としては、学校応援団の高齢化に伴う人材確保が挙げられる。来年度は、各校での活動内容の見直し・検討をさらに進めて、地域力を生かしたカリキュラム・マネジメントの確立に向けた効果的な運営について推進していきたい。

### ③優良事例



【昔の洗濯体験（学習支援）】



【重機による除草活動（環境整備支援）】

## 2 放課後子ども教室

### ①実施状況

本市では、これまで「行田市放課後子ども総合プラン」に基づいて段階的に拡大を推進し、今年度は新規5校を加えた計11校で開室している。昨年度設置した「各校地域実行委員会」を、より自立型の協働組織とするため、学校・家庭・地域との連携に加えて、放課後児童クラブ（学童保育室）との連携も深めている。

### ②成果と課題及び来年度の目標

昨年度に引き続き、県の「放課後の居場所づくり推進事業」を活用し、統括コーディネーターを委嘱して、学校・地域との調整役をお願いし、新規教室の運営補助と次年度に向けた日数の拡大を図っている。また、メニューには「県芸術文化ふれあい事業」を積極的に活用するよう促し、参加児童たちにさまざまな芸術・文化に関する体験をさせることができた。今後は、スタッフの安定的な確保と、各校の特色ある活動の充実に向けて支援を継続していく。そして、市内全校での開室を目標にさらなる拡大を推進したい。



# 令和元年度第2回東部地区学校・家庭・地域連携担当者会議・取組報告書

羽生市教育委員会

## 1 学校応援団 優良事例 ※羽生市立須影小学校（裏面参照）

## 2 放課後子ども教室について

### (1) 実施状況

- ・安心・安全な子どもの居場所づくりを目的とし、羽生市立羽生北小学校、羽生市立岩瀬小学校、羽生市立羽生南小学校、羽生市立手子林小学校、羽生市立井泉小学校、羽生市立新郷第一小学校が実施している。共通の取組としては、自主学習活動や運動遊びがある。各15～30名の児童が活動している。

### (2) 成果と課題、及び来年度の目標

#### ① 成果

- ・それぞれの学校区で、地域の人材を活用することで、子どもの体験学習の機会の充実を図ることができた。
- ・指導員との異年齢交流や異学年交流が促され、保護者からも好評であった。

#### ② 課題

- ・コーディネーター・指導員数（及び候補者数）が不足している。
- ・コーディネーター・指導員の連携による共通プログラムの更なる開発と実施。

### (3) 優良事例

#### ① 羽生市立手子林小学校

- ・学童クラブとの合同活動として行った。児童が運営を行い、お楽しみ会を実施した。

#### ② 羽生市立岩瀬小学校

- ・埼玉純真短期大学との交流活動（学園祭への参加、ハロウィンパーティーの実施）。

#### ③ 羽生市立羽生北小学校

- ・スポーツ推進委員等の協力を得て、フロアカーリング教室を実施した。

## 3 70万人体験活動について（みどりの学校ファームを含む）

### (1) 実施状況

- ・みどりの学校ファームはすべての学校で実施している。設置場所に関しては、校内ファームのみ9校、校外ファーム5校となっている。

### (2) 成果と課題、及び来年度の目標

#### ① 成果

- ・学校ファームでの活動が、体験活動の他、食育、家庭との連携、心の教育などにも良い影響を与えている。

#### ② 課題

- ・学校ファームの維持管理。より広い耕地、校外ファームでの実施。

#### ③ 来年度の目標

- ・計画的な収穫祭の実施等による、人・物に対する感謝の心を育てる取組の充実。

### (3) 優良事例

#### ① 羽生市立村君小学校

- ・ミニトマト、じゃがいも、トウモロコシ、サツマイモ等の野菜を児童自らが育て収穫し、給食時に食べた。
- ・地域の方の指導のもと、全校児童で田植え、稲刈り、手作業で脱穀、もみすり、精米まで全てを行った。収穫した米は、学校公開日に各家庭、地域で飯ごうを使って炊き、カレーライスを作り食べた。

「学校応援団」「放課後子ども教室」

「70万人体験活動（学校ファーム）」に関する取組報告書

加須市教育委員会

1 令和元年度の実施状況

(1) 学校応援団の活動

ア 活動内容

各校の活動例

市立すべての幼稚園・小・中学校において「学校応援団」を組織し各学校の実態に応じて学習支援、環境整備、登下校における安全確保、学校・家庭・地域の交流活動等を行った。

「学習支援」…田植え指導、戦争体験講話、和太鼓指導、うどん作り指導、読み聞かせ等

「環境整備」…樹木の剪定、遊具ペンキ塗り、花壇の整備、本の修理等

「安全確保」…安全パトロール、子ども110番の家の活動、安全マップづくり支援等

「交流活動」…もちつき大会協力、バザー参加、かるた大会協力、運動会参加等

スクールガード・リーダー研修会の実施

【日 時】令和元年8月7日（水）14：30 【場 所】北川辺文化・学習センター  
みのり多目的ホール議室

【参加者】35名（各校スクールガード・リーダー、教職員）

【内 容】講 師：防犯のまちづくり出前講座 利根地域振興センター 大谷 様

情報提供：埼玉県的事件・事故等の発生状況

防犯対策 登下校時の児童生徒の安全確保のための通学路点検のポイント

防犯パトロール（見守り活動）の進め方 等

研究協議：各小学校の登下校中の児童生徒の安全確保への取組の成果と課題等について

学校応援団の特色ある活動の例

【礼羽小学校：「夢広がる米作り体験」】

○ 学校応援団、ふれあい推進長、保護者の協力を得ながら、米作り体験を学習している。

1年間を通し、代掻きから田植え、脱穀までの過程を体験し、最後に学習のまとめとして協力いただいた方々を招いて「収穫感謝の会」を開催している。子供たちが学習発表と収穫した米でおもてなしをしている。この体験を通して、食の大切さを実感するとともに、地域への感謝の気持ちを育むことができた。

【北川辺西小学校：「環境教育・地域力結集の体験活動」】

○ 学校・家庭・地域一体の環境教育を推進し、「自分たちにできること」を考えて実践し環境保全に取り組んでいる。校内にあるビオトープでは、今年、「オニバス」が花を咲かせた。また、第5回目となる「西っ子プロフェッショナル体験」では、地元26業種の「プロ」講師を招き、全児童が「働くこと」を学んだ。これらの体験を通して、豊かな自然の恵みや人々への感謝の気持ち、自分たちが豊かな未来の担い手となる意識が育まれた。

【元和小学校：「お茶会体験」】

○ 7月7日七夕の日に、「お茶会」を実施している。これは、地域の茶道教室の先生が日本の文化を伝えたいという思いから始まり、約20年位続く行事である。赤い敷物や「野立て」を用意し、雰囲気を高めてくださっている。「お茶会」という落ち着いた雰囲気の中で子供たちは作法を学び、日本の伝統文化の素晴らしさを実感することができた。



**○学校応援団****(1) 実施状況**

市内全小・中・義務教育学校で学校応援団を組織し、コーディネーターと連携を図って活動している。多くの方の協力により、学習活動の補助、学校内外の見守り、体験活動の際の助言、クラブ活動の指導補助等、学校・地域の特色を生かした支援が多岐に渡り展開されている。

**(2) 成果と課題及び来年度の目標**

児童生徒の学習活動が充実し、子供たちの学力や体力の向上が見られたこと、学校を拠点として地域の方・教職員・保護者の交流が広がったこと、地域人材を活用して教育活動を充実させることによさについて、教職員の理解が深まったことが成果である。課題は、学校応援コーディネーターの人材確保や多くのボランティアを集めることに苦慮している点である。今後は、各学校のコーディネーターの増員・育成に取り組み、地域と協働して児童生徒を育てていけるよう学校応援団の組織拡大を図っていく。

**(3) 優良事例**

八木崎小学校では、学校応援団を中心に地域の諸団体と連携し、年間200回の豊かな体験活動を行っている。参加しているボランティアの数は、延べ500人を超える。今年度は、元PTA会長によるネットモラル講座、地域の稲作農家と連携した田んぼのかかしづくり、近隣の中学校・高等学校・大学からボランティアを募る学習支援教室等、学年ごとに多様な活動を行った。毎年多くの保護者や地域の方々も参加し、継続して行っている取組だけでなく、常に新たな取組を取り入れることにより、学校応援団の活動の幅を広げている点が優れている。

**○放課後子供教室****(ア) 今年度の取組についての成果と課題**

平成20年度より毎年1～3校ずつ開講し、今年度より市内小・義務教育学校全23校で実施している。

教室毎に実行委員会を組織し、各々の学校や地域の実情に合わせ個性ある教室運営をしている。開催回数も内容もまちまちであるが、どの教室もそこに集う異学年の児童、異世代の地域内の交流も深まり、学校・家庭・地域を結ぶ大きな役割を果たしている。

しかし、どこの教室もそれを運営するスタッフの確保に苦慮している。

**(イ) 次年度以降の取組についての計画・目標等**

次年度の具体的な実施計画についてはこれからの各実行委員会にて決定していくが、運営スタッフの確保と共に、放課後の時間を確保することが難しくなるので、どの教室も今年度と同等レベル、またはそれ以上のものを目指す、検討を重ね、工夫していくことが必要である。

**70万人体験活動（学校ファーム含む）****(1) 実施状況**

学校の実態や地域の特性に応じて、様々な体験活動に取り組んでいる。学校ファームについては、児童生徒が地域の方の指導や協力を受けながら、土作りから種まき、草取り等の世話、収穫、試食と年間を通して活動している。

**(2) 成果と課題及び来年度の目標**

成果は、地域との連携により、児童生徒の体験活動の幅が広がり、児童生徒が多くの人たちとコミュニケーションをとる場ができたこと、環境に対する意識や、農業や食への関心が高まったことである。課題は、今まで以上に地域との連携を強化することである。取組の見直しや引き継ぎを確実にしながら現在の活動を学校の特色として継続させるとともに、他市の特色ある取組を広め、各学校が豊かな体験活動を通して子供たちに生きる力を身に付けることができるようにしていく。

**(3) 優良事例**

葛飾中学校では、地域の農家の方の指導を受けながら農業体験学習を行った。種まき、苗植え、作物の管理、収穫、調理を行い、自分で栽培した作物を食べるという体験を通して、農作業に対して関心が高まった。地域の方との温かい触れ合いを通して、野菜嫌いを克服する生徒や将来の職業を意識し、農業科への進学を希望する生徒も見られた。



# 令和元年度第2回学校・家庭・地域連携担当者会議 取組報告書

令和2年1月30日

蓮田市教育委員会

## 1 学校応援団について

### (1)今年度の取組についての成果と課題

市内全小・中学校において学校応援団が組織され、①学習活動への支援 ②学校環境整備への支援 ③安心・安全確保への支援 ④部活動への支援について、各学校の実情に応じた特色ある活動が推進された。全校において、活発で継続的な充実した活動が展開された。

【具体事例】 『蓮田市立黒浜南小学校』

#### ①環境整備部

- ア 樹木の枝切りや除草作業等の校地内整備及び親子除草への協力
- イ コンポストの作成 ウ 植物園の造成
- エ 校庭の整備作業等 オ 児童用機の調整（年度初め）

#### ②学習支援部

- ア 授業における学習支援、ゲストティーチャー、アシスタントとしての活動
- イ 体験活動の指導、協力 ウ サマースクールの補助

#### ③安心・安全部

- ア 登下校の見守り イ 安全パトロールの実施（放課後）
- ウ 校外学習の引率

### (2)次年度以降の取組についての計画・目標等

次年度も引き続き、各学校における活動の充実を図り、情報交換、研修会等を通して、継続的な活動になるよう支援していきたい。

## 2 放課後子ども教室

### (1)今年度の取組についての成果と課題

放課後や長期休業等に小学校の施設を使用し、子供たちの安全で安心な活動場所を設けている。子供たちと地域の方が、勉強やスポーツ、体験学習、文化活動、その他交流活動を行い、地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進している。

【具体事例】 『蓮田市立蓮田北小学校』

県指定無形民族文化財「閨戸式三番」の体験として、式三番保存会の方を講師に迎え、年6回小鼓の製作や横笛の練習をしている。地域伝統芸能をより身近に感じる体験活動を取り入れたことにより、地域力の向上にも効果を上げている。

### (2)次年度の取組についての計画・目標等

今後も、学校応援団との連携を強化し、指導員や安全管理員に地域の力を活用し、各学校の実情・特色に応じた活動を推進していきたい。

## 3 70万人体験活動（学校ファーム含む）について

### (1)今年度の取組についての成果と課題

米作り、さつまいも・じゃがいも・大根・菜種栽培等を行っている。作物は集会・各教科等で地域の方々と恵みを味わい、児童は活動作業の喜びを感じている。

【具体事例】 『蓮田市立蓮田南中学校』

隣接地の田んぼを利用し、田植え・稲刈り体験を中学校1年生で実施している。田んぼの提供者を講師に招き、田植えと稲刈りの指導を受け、学年で一斉に行う。また、担当を決め、成長の記録を残している。

また、近隣の畑を利用し、ジャガイモの栽培を始め、季節の野菜の栽培を行い、年間を通して畑が有効利用されている。また、種植えと収穫だけでなく、水やり、間引き、雑草抜きなど、途中の管理を生徒自身が行うことにより、栽培の大変さについて実感することができている。

### (2)次年度の取組についての計画・目標等

次年度も学校応援団との連携を図り、各学校の実情に合った農業体験を推進していく。その一方で、活動時間の確保、小・中学校の内容の系統性を考慮した計画作成及び実施が課題である。



越谷市取組報告書

1 学校応援団(主担当:指導課)

(1) 学校応援団の実施状況

- ①市内全小中学校45校において学校応援団が組織され創意工夫を生かした取組が展開されている。
- ②平成27年度より中核市に移行したことにより、文部科学省学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金を活用し、市内全小中学校45校に学校応援団の予算を措置している。

(2) 成果と課題、及び来年度の目標

<成果と課題>

- ①令和元年度の市内の小中学校で活動したボランティアの延べ人数は、約109,000人(令和元年12月までの報告により)となっている。
- ②学校図書ボランティアの活動の充実のため、学校図書館運営ボランティアや学校司書対象に製本研修会や読み聞かせ研修会、図書ボランティア交流会を開催し、資質向上を図っている。
- ③越谷市学校応援団づくり推進委員会を年間3回開催している。今年度は、「地域とともにある学校づくり」をテーマとし、防災、コミュニティ・スクールを主な研修内容とした。
  - 第1回の推進委員会では、市役所の危機管理課職員による避難所開設・避難所運営についての講義とHUGを使ったワークショップを行った。
  - 第2回の推進委員会では、令和2年度からの学校運営協議会の全面実施に向けて、コミュニティ・スクールのメリットや効果、3つの機能(①熟議②協働③マネジメント)についての説明と、参加者が考えた「子ども像」に近づくための具体策を検討するという「熟議」を体験していただいた。
  - 第3回推進委員会では、市内3校(蒲生第二小学校・大沢北小学校・栄進中学校)による実践発表会を2月に開催予定である。各学校の担当者(教員)及び学校応援コーディネーターから特色ある取組の実践発表により、各学校の学校応援団活動のより一層の充実を図る。また、実践発表校は、自校の学校応援団活動を振り返り、一層の充実を図る機会とする。
- ④毎年度「越谷市学校応援団づくり推進委員会事業報告書」(冊子)を作成して各学校に配付し、各学校の実践を広めている。
- ⑤学校応援団の認知度を上げるため、上記冊子の他、広く家庭や地域に行きわたる「学校だより」やHP等への掲載を各学校へお願いする。「学校だより・HP」に、人材確保のため、越谷市教育委員会指導課もボランティア募集の窓口となっていることを掲載していく。
- ⑥越谷市学生ボランティア制度により、市内小中学校に95名を配置している。
- ⑦小学校高学年児童を対象とした放課後の学習支援「越谷こぼと塾」を開催し、現在、市内4校の小学校で実施している。指導者には、退職校長・退職教員・学生ボランティアに御協力いただいている。

<来年度の目標>

令和2年度よりコミュニティ・スクールが全校実施となり、学校運営協議会委員の中に学校応援コーディネーターを配置する形をとるので、コーディネーターとしてできることを他市の事例をもとに情報提供したり、コーディネーター同士の情報交換の場をより多く設定したりしていきたい。また、防災については、学校も地域も必要感のある内容であることから、避難所開設・避難所運営については引き続き、学校応援団づくり推進委員会の研修内容として取り上げ、地域と学校が協働する意識をさらに高めていきたい。

(3) 優良事例

- ・学習支援活動[越谷市立千間台中学校]
 

「自学自習を基本とし、生徒が勉強できる場を提供する」をテーマに中学2・3年生の希望者を対象に学校応援団(保護者、地域在住の塾講師)による学習支援を行っている。期間は、夏季休業中5日間、2学期10日間、3学期5日間の年間20日間。
- ・高校との連携[越谷市立桜井小学校]
 

近隣にある県立越谷北高校の学生による陸上練習の指導や書き初めの補助指導を取り入れている。

2 放課後子ども教室(主担当:青少年課)

(1) 実施状況(令和元年11月末日現在)

※各教室とも放課後や週末に月1回~週1回程度実施

	状 況	実施箇所	実施回数	登録児童数
1	小学校を会場として実施	12	162	431
2	小学校以外の公共施設で実施	6	68	161



### 1 学校応援団（主管課：指導課）

本市では、市内全小中学校において、学校応援コーディネーターが中核となり、各校の実態に応じた、特色ある活動が行われている。特に、今年度の傾向として、児童生徒の安心・安全に関わる活動が多く行われており、学校・保護者・地域の連携の在り方や、地域ぐるみの学校安全体制について確認する機会となっている。



学校・家庭・地域が一体となった防災訓練の実施



学校応援団を中心とする地域団体「結」による体験型安全教室の実施

#### 《成果と課題》

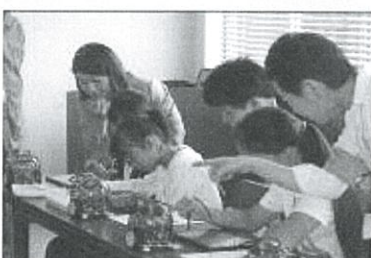
学校・家庭・地域の結びつきが強まり、子どもを地域で育てていこうとする意識が高まった。一方で、メンバーの高齢化や人員の確保が課題となっている。今後は、活動を継続していくとともに、支援者の確保のため、周知活動の一層の充実を図る。

### 2 放課後子供教室（主管課：社会教育課・指導課）

社会教育課が主管である「土曜広場」では、各種スポーツをはじめ、昔遊びや工作体験等、様々な教室を開いている。また、指導課が主管である「ジョイスタ」（土曜勉強会）では、補充教室や特別授業、入試対策を実施し、児童生徒の学力向上と学習習慣の定着を図る等、学習に対する興味関心を高める機会となっている。



土曜広場における、「読み聞かせ・クリスマス会」の実施



土曜勉強会（ジョイスタ）におけるプログラミング教育の実施

#### 《成果と課題》

各種の教室を通して、児童生徒の学ぶ意欲に高まりが見られた。また、子ども達の居場所づくりにも繋がっていると感じた。今後の課題として、一人でも多くの児童生徒に参加してもらえよう、参加を呼びかけていくとともに、地域人材の積極的な活用を図る。

### 3 70万人体験活動（主管課：指導課）

市内の中学生による社会体験チャレンジや、市内全小中学校における学校ファームの実践をはじめ、各校において、様々な特色ある体験活動が展開されており、学校と地域が一丸となった取組となっている。実際に見て触れる体験は、児童生徒を大きく成長させるとともに、生涯にわたって深く心に刻まれる機会となっている。



みどりの学校ファームを活用した「芋ほり体験」の実施



歴史学習における「火縄銃体験」の実施

#### 《成果と課題》

地域の教育力を結集した様々な体験活動が展開され、児童生徒の豊かな心の育成に大きく寄与している。特に中学校においては、今後の人生を生き抜くためのキャリア教育としての価値も大きく、学校の教育活動との相乗効果が生まれている。



## 1 学校応援団

① 実施状況（登録者数） 前年度より減少：▼ 増加：○ ※各学校の「学校応援団名簿」参照

	コーディネーター	ボランティア
小学校（23校）	54人 ○	2,362人 ○
中学校（11校）	33人 ○	1,470人 ○
計（34校）	87人 ○	4,832人 ○

## ② 成果と課題

## (1) 成果

市内すべての小・中学校に学校運営協議会が設置され、コミュニティ・スクールとなって3年が経過した。「地域とともにある学校づくり」と、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、「学校を核とした地域づくり」の一体的な推進に向かって、取り組んでいるところである。

学校運営協議会において、学校応援団のことが協議内容として話し合われた学校も多い。



【オレンジキャップの方によるあいさつ運動】

- ア 学校応援団の方に、たくさんのパンジーとビオラを花壇に植えていただいた。1年に2回、花の植え替えをしていただき、学校がとても明るくなっている。
- イ 生徒とPTAで学年ごとに分担して校庭の除草作業を行い、学校運営協議会、学校緑化応援団、地域の方にはテニスコート脇の通学路沿いの低木伐採作業等をしていただいた。通学路が明るく、見通しも良くなり、安心・安全な学校づくりを進めることができている。
- ウ 栗橋学園コミュニティ・スクールのオレンジキャップを被った地域の方による、毎朝のあいさつ運動の力は絶大なものとなっている。子ども・教職員・保護者・地域の「こうありたい」という共通の目指す姿に向けて、一丸となって取り組んでいる。

## (2) 課題

学校応援団として登録されているが、活動がされなかったということにならないように配慮しなければならない。そのために、学校応援団に支援していただく内容を明確に示していく必要がある。

- ア ボランティアの高齢化と世代交代、人材の確保。
- イ 学校応援コーディネーターや、ボランティアとの打ち合わせや調整時間の確保。
- ウ 管理職の負担軽減や教職員の理解や協力を得ること。

## 2 放課後子供教室 《久喜市の名称：ゆうゆうプラザ》

## ① 実施状況

実施会場数	市内23小学校	児 童	参加者数	3,247人
活動日数 1会場あたり	平日270日・休日129日・計399日 8～31日間 平均17日間		参加率	45.5%
活動時間	平日 15:00～16:30(冬季16:15) 休日 9:30～11:30	サポーター	実施委員	437人
講座数 1会場あたり	438講座 3～50講座 平均19講座		ボランティア	2,722人

- ア 柏市立酒井根東小学校視察研修（6月27日） 20人参加
- イ 情報交換会（7月17日） 103人参加
- ウ ゆうゆうプラザ見学会（9月～11月） 延べ251人参加
- エ 久喜市放課後子ども教室開設15周年記念事業（11月23日）



## 令和元年度第2回東部地区学校・家庭・地域連携担当者会議資料

【白岡市教育委員会】

### 1 学校応援団

#### ① 実施状況

- ・小学校6校、中学校4校すべてに組織されている。各学校で特色ある学校応援団活動（登下校の見守り、各教科の学習支援、環境整備、伝統文化継承の指導等）を行っている。令和元年度の登録者数はおおよそ1,200名を超えている。
- ・市として学校応援団や子ども会、スポーツ少年団などと連携を図り、活動を推進している。

#### ② 成果と課題、来年度の目標

成果・課題…活動を通して、児童生徒と地域の方々のふれあいの機会が増え、学校と地域の絆が深まった。今年度、市内学校応援団の1名が8月に埼玉県コーディネーター研修を受講した。研修会等での情報提供等の機会の確保や今後も信頼できるコーディネーターの育成が課題である。

来年度の目標…さらなる地域人材の発掘及び確保と活動の充実・地域との連携。活動の多くは環境整備であるが、各校の実態や要望に応じた活動と連携の内容に係る充実を図る。

#### <優良事例>

南小学校と白岡市社会福祉協議会南支部の共催による芸術を鑑賞する豊かな体験活動である。実施にあたっては、高学年児童が地域の方に手作りプログラムを手渡し、高齢者の方々を席まで案内するなど直接触れ合うことを大切に、豊かな心の育成を目指している。



白岡市立南小学校

「ふれあい芸術鑑賞会」の様子。

### 2 放課後子供教室

#### ① 実施状況

放課後子供教室として活動をしてはいないが、生涯学習部（学び支援課・いきいき教育課）が中心となって様々な子どもや親子向けの体験活動等を行っている。

「町ぐるみん白岡」や「ウィークエンドいきいき体験教室」では、おやじの交流会、田んぼの学校、自然観察会など小中学生が参加できる講座を設定し、様々な体験活動の機会を計画的に設けている。

#### ② 成果と課題、来年度の目標

成果・課題…地域の教育力を活かすことができたとともに、児童生徒の郷土への興味関心を高めることができた。また、今年度は令和元年度東部地区学校・家庭・地域連携実践発表会にて「町ぐるみん白岡」の取組について発表を行い、これまでの活動を振り返るとともに次年度に向けた取組の充実に対する意識が高まった。

来年度の目標…広報活動を充実させ、参加者数の増加と活動内容の充実を目指す。また、関係各課との連携をさらに図る。

### 3 70万人体験活動（学校ファーム含む）

#### ① 実施状況

年間指導計画に体験活動を位置づけ、各校で創意あふれた活動に取り組んでいる。学校ファームについても全小中学校で実施している。

#### ② 成果と課題、来年度の目標

成果・課題…多様な活動を体験することで、豊かな心を育てている。

来年度の目標…各校の優良事例の継続と、食育・環境教育とのさらなる連携。

#### ③ 優良事例

市内の小学校では、多くの学校において地域の方を指導者としてお招きし、5年生が田植えや稲刈りの体験を行った。種から苗を育てたり、昔ながらの脱穀の体験をしたり、藁を使って縄跳びの体験をしたりと、それぞれの学校において稲作の大変さや喜びについて触れるよい機会となった。



## 第2回 学校・家庭・地域連携担当者会議 取組報告書

宮代町教育委員会

### 1 学校応援団

#### (1) 学校応援団組織状況

- 平成20年度全小学校（4校）の組織化 コーディネーター（PTA役員9支援グループ代表1）
- 平成24年度全中学校（3校）の組織化 コーディネーター（PTA役員1、元PTA役員1地元団体関係者1）

#### (2) 令和元年度の活動状況＜優良事例等＞

##### ○各学校の実態に応じた特色ある学校応援団活動

1. おやじの会、パパネット等の父親の学校ボランティア組織による活動
2. 高校、大学との連携による高校生・大学生の学校ボランティアによる定期的活動
  - ・情報ボランティア
  - ・サマースクールボランティア
  - ・土曜活用事業ボランティア
3. 読み聞かせボランティアの活動…朝・昼年間 本の紹介や読み聞かせ等
4. 地域コミュニティ協議会との連携による全町「あいさつ運動」の実施
  - ・あいさつ運動「のぼり旗」（町じゅうなかよし・笑顔であいさつ）の全小・中学校設置と、あいさつ運動の実施
  - ・町民祭りにおけるあいさつ運動キャンペーンの実施（8月）
5. 除草活動、低木や垣根の剪定等、保護者と地域住民が連携した環境整備の実施。
6. 須賀小学校では、主な事業として以下の活動を行っている。

##### ＜1＞年間活動計画

###### ①学習支援ボランティア

田植え・稲刈り（6・11月 5年生）、金管楽器指導（6・9月 6年生）、地区別学習会（8月）、南中ソーラン指導（9月 4年生）、ミシンの支援（10月 5・6年生）、書き初め指導（12・1月 代表児童）、昔の遊び（1月 1年生）、日本工業大学ボランティア（11月 科学クラブ）

###### ②安全ボランティア 下校パトロール（通年）、交通安全の話（5・2月）

###### ③図書ボランティア 読み語りボランティア（通年 低学年及び高学年を隔週）、本の整理（通年）、本の紹介（7・12月）

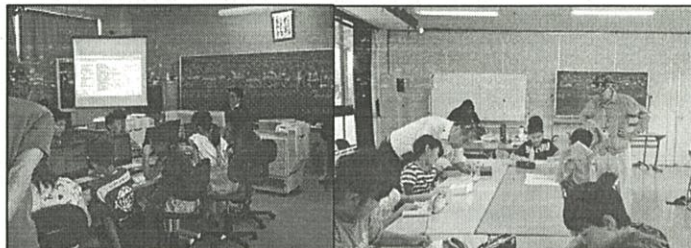
###### ④環境整備ボランティア

学校ファーム（通年）、環境整備（7・9月）、親子除草（8月）、環境整備・学校ファームの整地（2月）、日本工業大学ボランティア（理科実験器具のメンテナンス 年1回）

###### ⑤カヤ・カエデの木の保存ボランティア 定期的な手入れと環境整備（通年）

##### ＜2＞活動の様子（2つの特徴的な取組の紹介）

- ①日本工業大学の先生、学生、シニアボランティアの方々の協力を得て、プログラミング教室を実施している。4年生以上の全クラス、5時間計画のもとで実施している。今年度は、スクラッチを中心に活動している。



＜プログラミング教室＞

＜サマースクール＞

- ②サマースクールの実施 夏休みに、小学校を会場に3日間実施した。自主参加だが多くの児童が参加している。元教員、地域の方、中学生がボランティアとして学習のサポートとして参加している。



## 1 実施状況

### (1) 学校応援団（指導課担当）

学校応援団組織率 100%（小学校100% 中学校100%）

小・中学校ともに設置率は100%。コーディネーターを複数配置して実施。

### (2) 70万人体験活動（学校ファーム）（農業振興課担当）

実施率 100%

- ・学校敷地外のみでの実施 1校/12校
- ・学校敷地外と敷地内の両方での実施 7校/12校
- ・学校敷地内のみでの実施 4校/12校

### (3) 放課後子供教室（社会教育課担当）

実施校 1校/12校

地域の協力により、文化活動（和太鼓）や体育的活動（卓球）の体験活動を実施することで、地域や異年齢の子どもたちとの交流を推進するとともに、地域の教育力の活性化を図る。

## 2 成果と課題及び来年度の目標

### (1) 学校応援団

小・中学校ともに、安心・安全のための活動が中心であったものが、環境整備・学習支援にも拡がり、幅広い活動が定着した。積極的な活動の輪も広がってきている。また、学校応援団だよりを発行することで、その活動を広く地域に知らせている学校もある。

今後は活動を確実に継続していくために学校応援団コーディネーターを中心とした体制作り、活動内容を地域社会に広く周知していくことが課題である。

### (2) 70万人体験活動

各学校とも積極的に体験活動に取り組んでいる。市内にある県立高校と連携しての体験活動や施設見学を通して進路に関する目的意識を高める活動を進めている。また、地域人材を活用し、地域社会の文化に触れたり、親子で体験できる講座を実施したりした学校もある。体験活動で収穫した農作物を利用して、学校・家庭・地域が連携した取組を進めている学校もある。

この活動では、地域との連携を、より一層進めていくことが今後の課題である。

### (3) 放課後子供教室

放課後に子どもが文化活動を体験できる場を提供することによって、地域との交流を図ることができた。本市では平成28年度から全小学校で放課後の学習の取組「さってアフタースクール」を実施している。今後は、主管課と連携を図りながら、放課後子供教室とさってアフタースクールをさらに充実していくことが課題である。



# 令和元年度 第2回学校・家庭・地域連携担当者会議 取組報告書

杉戸町教育委員会

## ◆学校応援団 <主担当 学校教育課>

令和元年度もすべての小中学校で学校応援団の活動を進めることができた。

各校のコーディネーターは、PTA関係者（現・元）が大半を占めており、学校支援グループ（親父の会、古代住居保存会、読み聞かせボランティア、英語ボランティア等）の代表者も、その活動がPTA活動からスタートしたものが多く、PTAとのつながりは学校応援団にとって欠かせないものとなっている。

小学校では、児童の安全を見守る活動、読み聞かせ、学習活動の補助、環境整備や体験活動の補助などを活動の中心としていた。中学校ではそれに加えて部活動の支援なども行われている。

杉戸第三小学校では、学校経営方針を『3つのわ「和」「話」「輪』と掲げ、学校応援団は、主に「学習支援ボランティア」「安全ボランティア」「放課後子ども教室事業」を行っている。総合的な学習に時間の学習支援として、近隣にある県立杉戸農業高等学校園芸科の生徒が講師となり、梨栽培における「梨の受粉・摘果」、「草刈り・敷き藁」、「収穫・糖度検査」などの一連の過程を子どもたちが体験した。また、1・2年生の生活科の支援として、学区内の洋菓子店や商店・工場などの協力を得、地域ではたらく「人」に焦点化し、様々な人について学んだ。6年生のキャリア教育においても講師として、全面的に協力を得た。

【課題】応援団の高齢化や登録人数減少による、コーディネーターや新しい人材の確保

## ◆放課後子ども教室 <主担当 社会教育課>

開設12年目を迎える杉戸第三小学校、9年目の杉戸第二小学校、3年目の泉小学校で放課後子供教室を実施した。杉戸町放課後子供総合プラン運営委員会において計画や活動内容について意見交換を行い、学校関係者、放課後児童クラブ、地域住民、PTA、行政の連携により実施した。杉戸第三小学校では、1～6年生を3クラスに分け、週1回2時間程度、杉戸第二小学校では、週1回1時間程度、泉小学校では、月2回2時間程度活動している。学校の空き教室や関係施設を活用し、宿題などの学習、お菓子作りや季節に合った工作など、多岐にわたる活動を行っている。また、各教室では、放課後児童クラブとの連携事業として、年1回、スポーツ活動などを合同で行った。

異年齢の中での活動や地域の幅広い世代の方々と交流の輪が広がり、地域の教育力の向上につながっていることが成果の一つと言える。

【課題】指導員・ボランティアの確保、情報の共有化や研修の充実

## ◆70万人体験活動<主担当 学校教育課>

すべての中学校で実施した「職業体験活動」では、生徒が、近隣の飲食店や工場、幼稚園、小学校、消防署等の事業所で実際の仕事の一部を体験した。体験を通して、挨拶やマナーの大切さ、仕事に対する責任や勤労の喜び、苦勞等を学び、将来に向けて望ましい職業観を育む機会となった。

また、「学校・地域ボランティア活動」を行った中学校では、地域や学区内の小学校と小中一貫教育の一つとして活動を実施した。あいさつ運動、パンク修理隊や落ち葉掃きボランティア・募金活動をはじめ、夏休みに小学校へ出向き、「赤ペン先生」として小学生に学習を教



### 「学校応援団」(町内全小中学校)

- 1 町内各小中学校において、校長・ふれあい推進長(学校応援コーディネーター)で構成する実行委員会を設置し、実施している。内容は、ふれあい推進長の委嘱や情報交換、等。
- 2 各校での取組
  - (1) 各教科・領域、道徳、総合的な学習の時間などの授業への学習支援。
  - (2) 学校行事(運動会や学校公開日等)への協力、地域行事への子どもたちの参加促進。
  - (3) 学校施設の整備や修繕、除草や植木の剪定・花植えなどの環境整備への支援。
  - (4) 子どもたちの登下校の見守り及び校区内のパトロール等の安心、安全確保への支援。

#### (ア) 今年度の取組についての成果と課題

- ・各校で、上記の取組の実施の際、よりきめの細かい支援が4つの視点からなされ、児童生徒の活動がよりよいものとなっている。
- ・「みどりの学校ファーム」事業では、苗購入の支援により、就労体験や収穫体験ができ、活動の幅が広がった学校が多くある。

#### (イ) 来年度以降の取組についての計画・目標

- ・各校で学校応援団の支援を学習活動や行事等に活用していく。
- ・情報交換、研修会等を通して、継続的な活動になるように支援していく。
- ・地域人材の確保と活動内容の充実を図る。

### 「放課後子供教室」

- 1 金杉小学校において「放課後子ども教室」を実施する。他の小学校においては、代替案として小学校施設や公共施設等を利用した社会教育講座や体験講座の実施を実施する。
  - (1) 小学校施設を利用しての社会教育講座の実施
  - (2) 公共施設が実施している講座の利用

#### (ア) 今年度の取組についての成果と課題

- ・松伏町立金杉小学校において「放課後子ども教室」を週2回1時間半、前半は学習活動行い、後半は体育館や校庭で体験活動を実施した。
- ・他の学校では、社会教育講座や体験講座を実施した。
- ・学校と指導員等との連携及び協働を支援していくことが課題である。

#### (イ) 来年度以降の取組についての計画・目標

- ・週1回、ALTと連携し「英語教室」を継続して実施していく。
- ・実施校の実情や特色に応じた活動を行っていく。

### 「70万人体験活動」

各校では子どもたちに、思いやりの心や規範意識、学習意欲、目的意識、望ましい勤労観・職業観など豊かな人間性や社会性を育むために、地域の方の協力や関係機関との連携を積極的に行い、自然体験、職業体験、勤労生産体験、社会奉仕体験や世代間交流を行っている。

- (1) 保幼小連携・小中連携の取組の実施(全校実施)
- (2) 老人介護施設との交流(全校実施)

#### (ア) 今年度の取組についての成果と課題

- ・保育園、幼稚園、認定こども園の園児と小学校の児童の交流会、小学校での中学生の演奏や合唱の発表、小学生に対する中学生による学習指導(夏季学習)など、異校種交流は、「上級生としての自覚・意識の芽生え」と「下級生の憧れ・目標・努力」に繋がっている。
- ・介護老人福祉施設等での入居者との交流や体験活動。「みどりの学校ファーム」における就労体験や収穫体験。地域の方とのかかわりから、思いやりの気持ちや奉仕に関する興味関心が高まっている。また、児童生徒の心豊かな人間性を育てる機会となった。

#### (イ) 来年度以降の取組についての計画・目標

- ・松伏町立松伏中学校の3年間を通した自然体験など、各校の実情に合った体験活動を推進していく。



# 令和元年度 第2回学校・家庭・地域連携担当者会議 資料

吉川市教育委員会

## I 学校応援団について（担当：学校教育課）

### 1 実施状況

- ①吉川市小・中学校応援団研修会を開催し、各学校の活動状況を、実践報告書をもとに情報交換している。運営の一層の効率化を図る。
- ②市教委から学校応援団推進事業交付金として各学校に年間15,000円を交付している。消耗品の購入に本費用をあて、予算面でのサポート行う。

### 2 成果と課題

- ①学校・家庭・地域との連携・協力がより深まり、これまで以上に地域の方が教育活動に関心をもってくださるようになった。
- ②専門的な知識や経験をもつ保護者・地域からの支援により、学習内容が充実し、児童・生徒の学習意欲が高められた。
- ③学校応援団の活動についての理解を図り、人材の確保やコーディネーターの養成などに取り組むことが課題である。（おやじの会などについては、会員の広がりについて課題と考える学校が多い。また、支援者が高年齢化している。）

### 3 事例

- ①おやじの会による体験活動・・・環境美化活動（ビオトープ管理、樹木等の剪定、除草、修繕等）、親子体験活動（学校宿泊防災キャンプ体験、飯盒炊飯）
- ②各ボランティア・・・安全、植栽、読み聞かせ、学習支援、うさぎ飼育、校外学習引率補助等
- ③JA さいかつ・・・稲作体験活動等

## II 放課後子ども教室等について（担当：生涯学習課）

### 1 実施状況

- ・平成29年度9月より三輪野江小学校において実施。家庭学習等の学習、体験活動を組み合わせて実施。体験活動では、木工教室、サッカー教室、音楽鑑賞会、スタッフによるレクリエーションなど充実した内容となっている。

### 2 成果と課題

- ・生涯学習課が中心となって学校と繰り返し協議を重ね、学校への負担が少ない、持続可能な計画を立案している。

### 3 事例

- ・体験活動では、木工教室、サッカー教室、音楽鑑賞会、スタッフによるレクリエーションなど充実した内容となっている。

## III 地域寺子屋事業

### 1 実施状況

- ・夏休みなどの長期休暇中に地域の集会所などを開放し、安心して安全な子供の居場所を提供する事業として実施している。

### 2 成果と課題

- ・地域寺子屋事業は、地域住民からなる「実行委員会」による企画・準備・運営が行われており、地域を活性化する地域主体の事業になっている。

### 3 事例

- ・それぞれの地域で内容が異なる。カレー作りや、夏祭り、実験教室、手品教室棟、地域の実態にあわせて計画している。



## 1. 放課後子供教室

放課後等、公共施設や小学校の施設を活用し、心豊かで安心・安全な放課後の居場所づくりを目的として事業を実施している。現在、「わくわく柴」の愛称で、高州地区文化センター、瑞沼市民センター、東和東地区文化センターの公共施設3か所に設置するとともに、小学校内に「さくらんぼキッズ」(桜小学校 平成30年12月)「いとっこひろば」(彦糸小学校 令和元年6月)を開設した。

### ➤成果と課題及び来年度の目標

小学校内の放課後子ども教室では、教室への愛着を深めるため、実行委員会にて企画主導したプログラムに基づき、レクリエーションや創作・学習を取り入れるなど創意工夫を図り、体験活動を行った。今後は、近隣中学校の生徒や地域の方々の協力のもと、地域全体の教育力の向上と交流の輪の拡大に努めていく。

### ➤優良事例



教室にフロアマットを敷く様子 (さくらんぼキッズ)



新聞紙を使ったゲームを楽しむ様子 (いとっこひろば)

## 2. 70万人体験活動 (みどりの学校ファームに関して)

小学校、中学校、学校応援団、推進協議会(市産業振興課、クリーンライフ課、市教委指導課、JAさいかつ)による組織を活動母体とし、みどりのカーテン、作物の栽培等を市内全小・中学校(小学校19校、中学校8校)で実施している。

### ➤成果と課題及び来年度の目標

- 公害防止等を目的とした事業所から成る「環境保全協力会」から市内小・中学校へゴーヤの苗をプレゼントしていただき、市内全小・中学校でみどりのカーテンづくりに取り組むことができた。本年度は、5月17日に贈呈式が行われ、各校での植え付けを行った。
- 地域の方の協力で、田んぼや畑で農業体験ができる学校がある一方で、学校周辺の環境の変化や農家の方の高齢化により、近隣の田畑での体験活動が難しくなっている学校もある。各学校の活動に係る課題を集約し、市の関係課と協議し、解決を図りたい。